

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

神辺西中学校区	校番 36	福山市立神辺西中学校
最終更新日	2020年(令和2年)3月31日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	スキル：課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 コミュニケーション能力 倫理観：思いやり
1 進捗度が読み取れる目標を設定し、適切に分析すること。 2 中学校区で進められる教育の目標や内容を発信し、保護者・地域の理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査について、小学校では3教科の内、国語・理科が県平均上回り、算数は下回っている。中学校では、3教科すべてで県平均を下回っている。 小学校では「授業が分かる楽しい」に対する児童の肯定的評価86.0%、中学校では83.6%である。 新体力テストの実施結果において、小学校は県平均を超えた種目率が60.0%、中学校は県平均を超えた種目率が70.8%である。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	知：自分の考えを持ち伝え合う子 徳：人の気持ちがわかり協力できる子 体：健康でねばり強い子
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 廉塾規約を基盤とした神辺小学校「すてきな神辺っ子」、神辺西中「四つの心得」の実施 神辺西中学校区授業モデルを基盤とした授業改善の実施 神辺西中学校区における「21世紀スキル&倫理観」の評価基準による個に応じた指導の実施

III 自校

ミッション	地域に信頼され、生徒・保護者より「この学校で、学んで良かった」と高い満足度で評価される活力ある学校	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	
学校教育目標	自ら学び、自ら考え、仲間とともに、将来をしなやかに生き抜く力を身に付ける生徒の育成	めざす子ども像	中期	学習内容や身の回りの出来事から課題を発見し、決するまでねばり強く取り組みようとすることが出来る。	課題を解決するために、既習事項や技能・経験をもとに論理的に考え、その方法・結果を効果的に他者に伝えることができる。	自己と他者の違いを認めたと上で、みんなでより良い生活が送れるように、課題を解決しようとする。
現状	<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力状況調査において、国語、数学、理科3教科で県平均を下回った。特に数学の課題発見・解決型の設問通過率が低い。学習を計画的に進める、習得した知識・技能を実生活に活かすといった活用力に課題が見られる。 四つの心得(あいさつ・言葉遣い・掃除・時間厳守)の取組について、95%の生徒が自己肯定感を持っている。コミュニケーション力向上に対する生徒の意欲は高い。 学校での課題等の提出率や家庭での学習時間が十分ではない。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ペアや小グループを活用した授業展開や「あっ」と思う導入や発問、掲示物の工夫により「授業が分かる」と肯定的にとらえている生徒は84%である。反面、学習に対して受動的な生徒がおり、主体的な学びを促し、「課題発見・解決力」「思考力・判断力・表現力」を育成する手立てや工夫が必要である。 		後期	自ら課題を発見し、身に付けた技能や既習事項を生かしながら、筋道を立て課題を解決しようとする力が身につけている。	課題を解決するために既習事項を生かし、対話等を通して、互いの相違点を理解し、深い学びをめざすことができる。	自己と他者の違いを受け入れ、協働しながら課題を解決し、よりよい生活をめざし続けようとする。
		教科等	研究	特別活動(学級活動)		
		主題・内容等		「思考力・判断力・表現力を養う授業の創造」 ～グローバルな視点で、学ぶ意欲を育成し、主体的な学びへ～ ・神辺西中学校区授業モデルに基づき「目標」と「型」が整合した授業づくりにより、「課題発見・解決能力」「思考力・判断力・表現力」の育成を目指す。 ・廉塾規約ともつながる「四つの心得」の定着・行動化に向けた取組により、「コミュニケーション能力」の育成を目指す。		
			めざす授業の姿	1 目標から逆算した授業設計により、課題発見・解決力の育成をめざす授業(目標型との整合) 2 「考えたい」「話し合いたい」「学びたい」を引き出す発問や教材の提示(児童生徒が「あっ」と思う導入、発問、振り返りのある授業) 3 コミュニケーション能力を育成する授業展開(思考し、表現し、関わりのある授業) 4 「分かった」「できた」と実感できる授業(基礎学力の定着)		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神辺西中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力 _セ 評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力 _セ 評価	達成評価	総合評価	改善方策
5	全国学力学習状況調査で県平均を上回る。	★	継続	①基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、その活用力を付ける。	○活用問題を取り入れた定期テストの結果を度数分布表に示し、30点以下の生徒割合の変化を把握し、授業及びテストを改善する。	○国語・社会・数学・理科・英語の定期テスト30点以下の割合を15%以下にする。	全教科、活用問題を定期テストに取り入れることが出来た。 2年社会 20.2% 数学 18.5% 英語 22.6% 3年数学 18.9% 理科 21.4%で未達成。	3	3	継続して、活用問題を定期テストに取り入れる。また、生徒割合の変化を把握し、授業及びテストを改善し、数値目標に近づける。	□全教科、活用問題を定期テストに取り入れることが出来た。1年数学35.5% 英語30.0% 2年数学 22.1% 英語 24.0% 3年生数学 20.4%で未達成。 ◎全国学力調査県平均を下回る。	3	3	3	入試問題を意識した活用問題を定期テストに取り入れる。また、生徒割合の変化を把握し、授業及びテストを改善し、数値目標に近づける。
			継続	②家庭学習の定着を図る。	○1・2学期のテスト発表期間中を、ステップアップウィークとし、学習目標を明確にさせ、学習時間の調査を行う。	○毎日、1+ (学年×0.5)時間以上の家庭学習をする生徒を90%以上とする。	目標時間を越えた生徒 1年 86.5% 2年 82.6% 3年 53.0% 学校全体 71.6%であった。	3	2	ステップアップウィークの取組を学年全体で実施、学級委員会とも連携し、生徒の意識向上を図る。	□目標時間を越えた生徒 1年 92.4% 2年 75.9% 3年 70.5% 学校全体 77.2%であった。 ◎家庭学習時間はある程度定着、成果は出せた。	3	3	3	ステップアップウィークの取組に加え、普段から日誌を通じ、家庭学習時間定着の意識付け、提出物の点検を個に応じて行う。
2	社会人基礎力を身に付け社会に出て通じる生徒を増やす。		継続	③「四つの心得」(挨拶・言葉遣い・掃除・時間厳守)の定着を図る。	○「四つの心得」に関連した活動を生徒会の主体的な活動として実施する。	○生徒アンケートで挨拶・言葉遣い・掃除・時間厳守の項目における肯定的評価を90%以上にする。	アンケートより、「四つの心得」に対する生徒の肯定的評価 挨拶 83.4% 言葉遣い 81.1% 時間厳守 94.6% 掃除 86.5%	3	3	各委員会の取組を行事などと絡めて、「四つの心得」の習得に繋がるように仕組む。	□アンケートより、「四つの心得」に対する生徒の肯定的評価 挨拶 81.6% 言葉遣い 80.2% 時間厳守 91.0% 掃除 84.7% ◎ある程度定着	3	3	3	委員会の生徒にやらせ切るための支援や取組み内容を掲示したりする工夫をしていく。
1	長期欠席生徒を減らす。	★	新規	④教育面談・週に1度のカウンセラー会の充実を図る。	○見通しを持った計画と時間の確保を行い、初期対応・報告を徹底する。	○Q-Uアンケートで、「学校内に本音や悩みを話せる先生・友人がいる」と答える生徒の満足度を90%以上にする。	Q-Uアンケートは、11月に実施予定。カウンセラー会は関係者間で取組の中身を確認し組織的に取組め、成果も出ている。	3	3	Q-Uアンケート実施後、安心して学校に来れるように生徒との面談を行い、学級経営の向上及びカウンセラー会の更なる充実を図る。	□Q-Uアンケート生徒満足度 78.6% ◎不登校生徒 24人 昨年比+1人 新規不登校生 4人 (昨年比-5人) S.C会の充実は図れた。	3	2	3	個人面談、学習支援の充実を図り、生徒個々の学習の躰きを把握する。ほっとルームの充実を図る。
6	新体力テストの県平均以上の種目率を高める。		継続	⑤各学年において、新体力テストの種目を4種目以上とする。	○体育の授業で毎時間ランニング等新体力テストと関連した基礎運動を実施する。	○新体力テストの実施結果において県平均を超えた種目率60%以上を目指す。	5月に新体力テスト実施、12月に出る県平均値と比較し、結果を見る。授業の始めに必ず補強運動を取り入れ、記録の向上が図れている。	3	3	体育の授業で、授業の始めに心拍数の上がる補強運動を行い、体力の向上に努める。	□◎本校の新体力テストと県平均を比べた結果、70.8%の種目が県平均を超えることができた。8種目中、県平均を超えた種目数は、男子は全種目、女子は6種目であった。	4	4	4	今年度の比較結果より、男子では、50m走とボール投げ、女子は立ち幅跳びとボール投げが主に弱いということが分かった。体育の授業等で基礎運動の改善を図る。

6	授業改善に向けて教職員の資質と指導力を高める。	★	継続	⑥ 授業力向上のための組織的・計画的な研修を推進する。	○一斉研修等で授業研究を行い、神辺西中学校区授業モデルに基づいた授業改善を行う。	○「授業がよく分かる」という生徒を85%以上にする。	校区一斉研修等で研究授業を実施し、授業モデルの共有化を図った。生徒アンケート結果は89.7%。	3	3	校内研修・校区一斉研修を引き続き実施していく。生徒の主体的な学びが取り組める。さらなる授業改善を図っていく。	□校区一斉研修等で研究授業を実施し、授業モデルの共有化、研究協議を行った。生徒アンケート結果は86.7% ◎研修は推進できた。	3	3	3	研修等で授業モデルの共有、研究協議を行う。自分の授業に取り入れることができることを取り入れる。
				○授業参観週間を前後期で各1回持ち、相互評価し授業改善に生かす。 (※新規取組)	○参観後、自分にかせる点・改善点をA5用紙に記入し、授業者及び教務に返すことを全教諭が行う。	前期に1回、授業参観週間を実施できた。参観した後の記録用紙の提出は62%。	3	2	後期も同様に実施していく。参観後自分に生かせる点・改善点への記入を全教諭に促す。提出率を90%以上にする。	□後期に1回、授業参観習慣を実施できた。参観した後の記録用紙の提出は100%。職員研修で、生かせる点・改善点を共有できた。 ◎指導力向上の成果は個々で差がある。	3	3	3	引き続き、参観後に自分に生かせる点・改善点への記入を全教諭に促す。職員研修において全体で共有・議論を行う。	
				○OSDGs 17項目と関連付けした教科授業を年間1単元は行う。 (※新規取組)	○OCMに実施単元を明記し、実施後、その成果と課題を全教諭がレポートする。	カリキュラムマップにSDGsと関連できる単元を確認した。2学期終了後、レポート作成の確認を行う。(12月5日を目安とする)	3	2	全教員に、再度成果と課題のレポート作成の呼びかけを行う。実施単元を確認する。チャレンジ期間終了に向け取り組む。	□成果と課題のレポートについては総合的な学習を入れた11教科中7教科が作成することができた。 ◎チャレンジ期間を終了できた。	3	3	3	教科に取り入れることが難しい学年や教科もあるため、CMのどの部分にSDGsを関連付けるかは検討を行う。	
3	保護者の期待の応え、信頼される学校にする。	継続	⑦ さまざまな機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外へ広く発信する。	○生徒の学習や生活の取組等を伝える学年日より、学校日よりを発行し、HPを更新する。	○学年日より、学校日よりを毎月1回以上発行し、HPを月2回以上更新する。	学校日より・HP共に更新はできている。	3	3	HPの内容の充実を図る必要がある。	□各種たよりの発行は実施できた。HPの更新は、月によって偏りがあった。 ◎生徒の様子や学校の取組みを発信することができた。	3	3	3	発信の日を決め、定期的に確実に発信していくことが必要である。	
			○参観日や各学期に保護者アンケートやいじめ防止アンケートを実施し、保護者の学校満足度を把握する。	○保護者アンケートにより、保護者の学校満足度を80%以上とする。	通学させてよかった95.5% 悩み相談にに応じてくれる91.5% 必要に応じ連絡がある89.9% 平均満足度 92.3%	4	4	現状を維持すると共に、さらに担任等と保護者の関係を大切にし、生徒に関わっての情報を密にしていく。	□満足度アンケート結果 1年95.2% 2年95.7% 3年97.4% 全校平均96.1% ◎昨年比+5.1%	4	4	4	現在の数値を維持していけるよう来年度もチーム神西として、組織的に取組みを行う。		
2	働き方改革に取り組み教職員の健康増進と教育の質の向上を図る。	継続	⑧ 教職員の超過勤務時間を削減する。	○部活動休養日を年間行事予定に基づき、計画的に実施する。	○部活動休養日を確実に実施する。 (週/平日、土日各1日)	できている。	3	3	今後も教職員の健康に留意していく。	□確実に実施できた。 ◎部活休養日を年間計画に位置付け、実施した。また、教職員の健康に留意していった。	3	3	3	来年度、部活休養日の時間外在校時間の削減を確実にを行い、職員の健康増進を図り、その成果を生徒に還元する。	

				○学校経営会議を計画的に開催し、業務改善に努め、職員の退校時間を早める。	○職員の平均退校時間を前年比、-30分とする。	昨年平均18:16 今年平均18:10 -6分であった。			退校時間の目標を設定するなど、組織的に取り組む。	□10月18時50分(-20分) 11月19時(+9分) 12月18時41分(+2分) 平均(+18分) ◎昨年度を18分超える数値になった。					水曜日の定時退校を確実に。また、他の日も施錠時間を伝えるなど退校時間を意識できる丁寧な声かけをする。来年度は、前年度の各月の比較をしながら翌月の目標数値などを伝えるよう声かけをする。
							3	2			3	2	2		

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。